

令和7年度すくわくプログラム活動報告

江戸川区南篠崎第二保育園

テーマ「感触遊び」



園庭の砂場ではお団子作りをしたり、砂の山を登って踏む感触を楽しんだり、年齢によって様々な子どもの姿が見られます。子どもの育ちの中で触れてみたいという欲求、疑問、探求心を育むことで心が豊かになることから「感触遊び」をテーマにしました。

日頃家庭では触れる機会が少ない素材を用意したり、保育園だからこそできる大胆な遊びを取り入れることで、子どもも大人も楽しみながら行ってきました。



まず保育士が様々な素材を持ち寄ってボードを作ってみました。子どもたちにとってはちょっとした癒しの空間です。



片栗粉で作った粘土です。水ではなくてリンスと混ぜることで握ると固まり、揉むとサラサラになったりします。

「気持ちいいね!」「ずっと触っていたい!」という声上がり、何度も感触を楽しんでいました。

スライムの感触も握ったり、伸ばしたり、様々な形に変化していく様子を楽しんでいました。複数の色のスライムを用意すると、色の混ざる様子も「色が変わった!」と夢中になっていました。





廊下に牧場コーナーを設置しました。牛と羊を紹介し、牛のおっぱい（絵の具で作成した白い水を入れたゴム手袋）を絞ったり、羊の毛（綿）を刈ったりやって見せると興味を持つ子どもたち。実際に触ってみると「わあ〜」と歓声があがりました。



牧場体験



スポンジや芝生、ペットボトルの蓋などの様々な素材で作ったセンサリーマットです。進んでいくにつれて足の感触が変化していくのを楽しんでいました。お気に入りのコーナーでは何度も足踏みをして刺激を感じていました。



片栗粉やスライムなど普段触らない物を提供すると、“なんだろう？”から興味がわき、触れることでの変化を各年齢で楽しむことができました。感触遊びの経験が浅い子どもも多く、慎重になる子どもの姿も見られましたが、大人が楽しみ、わくわくしている姿を見ることで少しずつ触れるようになりました。家庭での経験には個人差があり、経験できない子が、園で経験することができたことは良かったと感じています。また、感触だけでなく五感で感じることを体験することで、子どもたち自ら刺激を求める姿が見られました。そこから、感触遊びから得た刺激が、更なるあそびへの意欲・探求につながり、情緒の安定にも繋がっていくことを実感できたので、今後活かしていきたいと思います。